

教育目標		豊かな心 すこやかな体 人とかかわる力 ー自然いっぱい、笑顔いっぱい みんなのせつよう幼稚園ー ・自分で考え、行動する子ども ・健康でのびのびと活動する子ども ・みずみずしい感性をもつ子ども ・思いやりの心をもつ子ども ・仲間と共に伸びる子ども						
重点目標		1・豊かな心を持ち、すこやかな体・人とかかわる力を育てる保育を推進する			2・地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
教育課程	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標の達成に向け、24ヶ月を見通した指導のポイントを入れた教育課程の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の中の環境構成や教師の援助を、今年度の幼児の姿や保育実践から見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程を学期ごとに見直し、今年度の保育実践を反映させる。 保護者アンケートにおいて「お子様は自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「お子様は友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合が共に85%以上になる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の学期ごとの見直しは、一学期については実施できたが、二学期分は年度末になった。 アンケート結果はそれぞれ100%、100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程担当者が中心となり、学期毎に教育課程の見直しの計画を立て、職員間で共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4・5歳児の異年齢児保育活動を教育課程に位置づけられたらよい
	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 保育方法の改善と工夫（試行錯誤を繰り返す遊びを生み出す環境の構成や援助）を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回講師を招聘し、園内研究会を行う。 「試行錯誤を繰り返す遊び」年間カリキュラムの実践と検証を行う。 試行錯誤を繰り返す遊びと幼児の学びについて事例研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの実践を通して、幼児が遊びの中でどのような試行錯誤をしているか、またその中で学びや育ちは何かを明らかにし、保育実践力の向上につなげる。 保護者アンケートにおいて、「子どもは自ら環境にかかわり、考えたり試したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを感じている」「幼稚園は、教師が協力して教育活動にあたり、保護者の願いにこたえている」と回答した割合がともに85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 10月と2月に講師を招聘し、園内研究会を行った。また、好きな遊びの環境構成に視点をあてた職員のみで園内研究会も学期毎に実施し、教師の資質向上に努めた。 幼児が遊びの中で試行錯誤している姿を記録し、試行錯誤につながる環境構成及び教師の援助をまとめた事例を職員間で交換、事例研究を行った。二学期分については交換しとどまった。 「試行錯誤を繰り返す遊び」年間カリキュラムの実践は行ったが検証はできなかった。 アンケート結果はそれぞれ100%、100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もカリキュラムに基づき、保育を実践・展開しながら、試行錯誤する幼児の姿を捉え事例を収集し、幼児の学びや、環境の構成や教師の援助についてまとめ、検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達年齢に応じた教育と異年齢児の交流活動からとらえた教育と両方が大事。職員の交流と意識改革が必要である。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導計画を意識した保育を実践する。 どの幼児にもわかりやすい環境構成や教師の援助(保育のユニバーサルデザイン化)に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導計画について全職員で共通理解し、目標を達成するための保育内容について意見交換する。 チューリップ対象児以外の支援を必要とする幼児について情報交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、短期案の話し合いの中で、チューリップ対象児や支援を必要とする幼児について情報交換し、具体的な保育内容、援助、環境について話し合う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 短期案の話し合いの中にチューリップ対象児への支援の視点で話をする事ができたことで具体的な保育活動の中での支援方法について職員間で共通理解が深まった。 チューリップ対象児以外の支援を必要とする幼児について情報交換することで今年度、支援の対象児でなかった幼児が2月からチューリップ対象児になり、より、手厚い個別の支援ができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期案の中にチューリップ対象児の支援についての項目を設けることで保育内容の中での具体的な支援について職員全体で共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もきめ細やかに支援することに期待する。
豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健やかな幼児の成長をめざし、楽しく運動遊びに取り組める保育を工夫し、体幹を鍛えることにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児自身が楽しみながら体幹を鍛えられるよう、律動や運動遊びを計画的に保育に取り入れる。 参観日などで親子ともに運動遊びを楽しめる機会を設け、保護者啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて「お子様は外遊びや身体を積極的に動かすことが好きである」と回答した割合が85%以上になる。 律動や運動遊びを計画的に保育に取り入れ、幼児が楽しみながら体幹を鍛えることにつなげる。 講師を招聘し、親子ともに運動遊びをする機会を設ける。 	4	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果では100%の肯定的な回答を得られた。 運動会前に小学校の先生より走り方を教えてもらったり、キッズエアロビクスで多様な動きを経験したりしながら、体幹を鍛えることにつなげることができた。 がんばりひょうを通し、外遊びを推奨したり、室内で体を動かして遊ぶことができるよう啓発したりすることができた。 講師を招聘し、土曜参観日に親子ともに楽しく運動遊びを行ったり、講演会を通して運動遊びの大切さを保護者へ啓発したりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通し、子ども達が群れて遊んだり、多様な動きを経験したりしながら、体を動かして遊ぶことができるよう計画的に保育に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年の子ども達は、体を思い切り遊ぶ経験が乏しい。幼稚園の自然環境や芝生の園庭を生かして教育を行ってほしい。

開かれ信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルに沿った避難訓練の実施。 個人情報の保護・管理の徹底 安全に活動できる環境の整備・管理の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> 火災、地震、防犯等あらゆる災害を想定し避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。 個人情報の管理システムの構築と危機管理意識の向上を図る。 保護者とともに、環境整備に努める体制を構築する。 天災、季候変動に関する情報を敏感に察知し、安全・安心を守る意識改革を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の避難訓練と引き渡し訓練を実施する。 個人のプライバシーにかかわる事案がある場合は、その情報の徹底管理及びチェックを行う。 P.T.Aのひまわりグループ活動を年間9回、その他必要時に数回程度計画実施する。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は子どもの生活や遊びの場としての環境を整えている」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練では、あらゆる災害に対応できるように計画・実施できた。幼児の意識向上につながっている。 個人情報の保護については、年度当初保護者にも紙面で提示し、意識向上、保護に努めた。 清掃週間を（1週間程度を2回）設け、保護者の負担感を軽減した。ひまわり活動については、芝刈り重視で考えたため、前期に集中したが、1回の活動時間及びメンバー構成等検討が必要である。 アンケート結果では、100%の肯定的な回答を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の環境整備については、PTA、保護者、まちづくり協議会など地域の協力を得ながら推進していく。 個人情報の取り扱いについては、書面等で管理する。 保護者の負担を軽減し、ひまわり活動の有効的なシステム等検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のように様々な災害がいつ起こるかも分からない。そのための危機意識は大事である。
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子育て支援センター的役割や機能を充実させる。 積極的に園の教育活動について情報を発信する。 小学校との連携・交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日園庭開放を実施し、子育て相談に応じる。 預かり保育（せつようタイム）を実施する。 未就園児交流「ちびっこ交流会」を、計画・実施する。 シニアサロンの方との交流する機会を設ける。 ホームページを月に3回以上更新し幼稚園の様子を発信する。 クラスだより、園だよりの発行や掲示板等を活用し、本園教育の発信に努める。 教師間連携と幼児・児童の交流を計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の園庭開放を実施する。 預かり保育（せつようタイム）を年間10回行う。 未就園児交流「ちびっこ交流会」を地域に広く呼びかけ、年間11回実施する。 シニアサロンの方に、「敬老の日の集い」への参加を呼びかける。 ホームページを月3回以上更新する。 クラスだよりを月1回発行する。また、園だより等を定期的に発行したり、掲示板等を活用して教育活動の写真を掲示したりして本園の教育について発信する。 摂陽小学校校内研究会への積極的な参加及び園内研究会への参加呼びかけをする。 幼児・児童の交流活動を計画・実施を積み上げる。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 園庭開放を活用している園児・保護者が特定されてきた。 預かり保育「せつようタイム」は、年間11回実施することができた。 未就園児親子の交流会「ちびっこ交流会」は、年間11回実施した。参加者が延べ37組あった。 ホームページは、毎月7回以上更新することができた。 本園の教育発信については、今後も工夫していく必要がある 摂陽小学校の校内研究会への参加は、積極的に行った。教師間の交流や連携がスムーズに行われていると実感している。幼児・児童の交流についても、双方に価値を見いだして実施できた。しかし、事後の話合いについては現状難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育「せつようタイム」及び「ちびっこ交流会」の内容の充実を図る。 掲示板、啓発紙、クラスだより等、タイムリーに実施する。 小学校との接続に向けた連携・交流の充実を図る。また、教師間において教育要領・学習指導要領に示されている内容からみる教育観について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育は、保護者ニーズが高いのだろう。しかし、職員の負担軽減となるような外部の協力体制も考えてはどうか。 小学校との連携が推進されたことはよかった。子ども達にとって、交流活動などは貴重な経験となっているだろう。
	幼児期・人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者への人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達を大切に思う気持ちや思いやりの気持ちを養う。 教師も積極的に研修会に参加するとともに、保護者にも参加を呼びかけたり、人権懇談会を開いたり等家庭に人権教育の大切さを啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の頑張る過程を認めたり、相手の気持ちを考えたり自分の行動を振り返ったりする機会をつくる。 保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で、自分を大切にすることや、友達との関わり方、他への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 保護者や教師が人権教育研修会に参加する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員で幼児の実態の共通理解をして、日常生活の中で幼児の頑張りが認めたり受け止めたりした。また、幼児の気持ちや頑張りを紹介する機会を設け自分や相手のことを大切に思えるようにした。 アンケート結果は95%の肯定的な回答が得られた。 教師と約80%の保護者が年1回以上人権研修会に参加した。 人権懇談会を開き、自分や子どもたちを大切に思う気持ちを持てる機会を設け、家庭に人権教育の大切さを啓発した。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児一人一人の思いが尊重されるような保育を展開し、幼児の気持ちを職員全体で共有し、一人一人の思いが大切にされるようにする。 今後も、人権研修会参加の呼びかけや人権懇談会を開き、家庭への啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も一人一人の思いが尊重されるような保育を進めてほしい。

学校関係者総括

・今年度も精力的に様々なことに取り組みされてきたことは評価したい。幼稚園教育の変革期である今、教育課程の見直しを図られるとよい。（行事の精選、発達過程に必要な教育活動など）

次年度に向けた重点的な改善点

・2020年度実施の3年保育、3歳児プレ保育、預かり保育及び本園の拠点園としての役割の遂行も見据えて、本園ならではのカリキュラム・マネジメントを推進する。

